

【テーマ5 教職の魅力向上に関する取組の推進】 団体名：株式会社浜銀総合研究所

「教職課程を置く大学等に所属する学生の教職への志望動向に関する調査」

調査の概要

◆課題認識

- 近年、公立学校の教員採用選考試験の採用倍率は、大量退職に伴う採用者数の増加等により低下傾向が続いており、新規学卒者の受験者数についても横ばいまたは減少傾向となっている。
- 大学等への入学から、大学等における養成の過程において、どのような学生がなぜ今教職を希望しているのか、また、学生の志望動向にはどのようなことが影響・作用している可能性があるのかということをも明らかにし、質の高い教職員集団の構築に向けた方策について検討できるようにする必要がある。

◆調査研究の目的

- 教職課程を置く大学等に所属する学生（卒業年度にある4年生）を対象にアンケート調査を行い、大学の性質別の特徴や、その他の要因別の傾向の違い等も踏まえ、「誰」が教員免許状を取得して採用試験を受けたのか、他方でどのような学生が免許状の取得を諦めたのか、免許状を取得したけれど採用試験を受けなかったのは誰か、試験は受けたが他の進路に進むのは誰か等に関する実態を把握できるようにする。
- また、学生の教職への志望度を高めた（志望度を維持することに影響した）と考えられる大学等の取組などの要因を分析により明らかにできるようにする。

◆調査研究の方法・対象

- 教職課程を置く229の大学の学生を対象に調査を実施した。ウェブ上に設置したアンケート回答画面にアクセスいただき、回答を得た。

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

①有識者との連携

- アンケート調査内容の検討（調査票設計）に当たっては、有識者と連絡・相談をしながら検討を進め、また、先行調査等も参照し、様々な観点からの検討を行った。

②大規模での調査実施

- 全体としての実態把握に加えて、大学の性質別の特徴や、その他の要因別の傾向の違いの有無等についても分析できるよう、規模・対象者の検討を行った。

◆成果

- 9,291件の有効回答を得た。対象には教員免許取得予定者だけでなく、教職科目を取っていない学生も含んでおり、様々な形で比較分析等が可能である。
- 学生の教職への志望度を高めたと考えられる大学等の取組などの要因を明らかにし、今後の施策の推進・検討等が行えるような、基盤となるデータを得ることができた。

今後の課題

◆有識者と連携した分析の実施・推進

- 得られたデータを基に、分析を進める。分析により、学生の志望動向に影響すると考えられる要因等を明らかにする。